

誰もが輝ける会社を目指し、 環境整備と人材育成に注力を

ハイブリット・ジャパン株式会社

山浦悦子さん

情報機器やコネクタなどの組み立て・検査やソフトウェアの評価業務等を手掛ける「ハイブリット・ジャパン株式会社」。創業者で現代表取締役を務めるのは、女性経営者の先駆けとして第一線を走り続けてきた山浦悦子さんだ。起業の信念、女性ゆえに背負わねばならなかった苦勞、社員や会社への思いなどを語ってもらった。



■ 子育てと仕事の両立の難しさ

女手一つで母に育てられた私は、「いち早く母を楽にさせてやりたい」「女性として社会進出を果たしたい」という強い思いがありました。何より、自ら稼がねば食べてゆけない現実があったため仕事と子育ての両立に挑みましたが、これが本当に大変で…こうした実体験があるからこそ、女性社員の気持ちが痛い程わかるのです。

■ 女性創業者 先駆けの苦悩と使命

私が起業したのは今から約36年前、まだ女性が男性と肩を並べて働くことすら珍しい時代です。まして女性経営者なんて、簡単に受け入れてもらえるはずがありません。女というだけで偏見を持たれたり、下に見られたりすることも日常茶飯事でした。そんな時は「今に見ている」という持ち前の負けん気と「世の中で苦しくない人はいない」という大局観を持つよう心掛けました。そもそも先駆者とは前人未到の地へ自ら道を切り拓いた者のこと。他の誰でもなく自身が“先駆け”となるのなら、相応の苦勞や苦悩があって当然でしょう。経営者たるものそれくらいの根性や覚悟がなければ、会社を継続させることも、社員を幸せにすることもできませんよね。



■ 伝習工女・和田英の精神を手本に

仕事と子育ての両立に苦勞した自身の経験と社員の声を元に働きやすい環境を整え、やりがいや誇りを感じながら働ける仕組みづくりに注力してきました。社員は家族も同然、子育てと同様に愛情たっぷりに人材育成にも取り組み続けています。とはいえ、時代が移り変わって組織が成長する過程では、柔軟な思考やフットワークの軽さがポイントとなる時期もありました。そんな私が長年ずっと変わらずに手本にしてきたのは、松代出身の伝習工女・和田英さんの生き様です。彼女は 17 歳で富岡製糸場に入場し、最先端の技術と知識を故郷に持ち帰った偉大な女性です。そんな彼女の心身の強さと志の高さには、今もなお学ぶべきものがたくさんあると思います。



■ 感動を与えられる企業であれ！

社員の幸せの実現も地域貢献も大切ですが、いずれもお客様の信頼を勝ち得た先に叶えられること。お客様に満足していただくのは当然のことで、満足を遥かに超える「感動」をも与えられる企業で在り続けねばなりません。ですから私たち経営者は、時にシビアかつ客観的観点に絶って自社の働きを捉える必要があると考えます。

自社の継続的な発展・成長に挑み続けるほか、近い将来、働く女性のサポート・高齢者の生きがいや居場所の創出・地域の絆づくり等を目的とした「寺子屋」の開設を目指す山浦代表。自身の経験や社員の声を生かし、地域が抱えるさまざまな課題と真正面から向き合う覚悟だ。

山浦悦子（やまうら・えつこ）
ハイブリット・ジャパン株式会社 代表取締役

趣味の書道は「一番効果的なストレス発散法！」なのだから。好きな言葉や気に入った言葉を、毎日欠かさず心を込めて綴り続けている。

